



第五十四号 平成二十三年十二月十三日(火)発行

ふるさと六ツ美を詠む

一筆啓上・作左の会主催
第8回ふるさと賞表彰式
が、十月二十六日(土)学区市民ホームで、八十余名の参加者を迎えて盛大に開催されました。

はじめに、最優秀賞と優秀賞受賞者に、賞状と記念品が授与されました。このあと、市川会長から、今回は、昨年以上応募者が多かったこと、役員が一次選抜を実施したことの話があ

りました。続いて、来賓の柵木誠市議会議員様よりこの行事の意義をたたえる祝辞がありました。



「トロフィを披露する受賞者」

最優秀作品

(短歌の部)

占部川夏の光を浴びながら

こいのうろこがきらきら光る 北部小六年 竹内亜優

田おこしのあとおいおどるしらさぎら

六ツ美の春のおとずれ告げる 六中一年 細井美紅

夕焼けに輝く稲穂首をたれ

暑さの中にも季節感じる 六北中一年 大山歩美

おばあちゃんは田で野菜つくってる

とれたて野菜が一番の味 中部小六年 蜂須賀通世

かさかぶりそろいの衣身にまとい

空にひびくよお田植えのうた 南部小六年 齋藤鈴

(俳句の部)

ベランダで首をのぼして見る花火 六北中二年 小野里美

ボール追う友の背中に赤トンボ 六中二年 多久島亮

稲刈りではあちゃんすぐうれしそう 北部小六年 市村杏菜

グラウンドにみんなのエール響く秋 六北中三年 山崎貴弘

すいかはね中が赤く照れている 中部小五年 萩原輝世

選者講評では、今泉一夫 作品作りで心掛けるとい
様より一般の応募者の中 いことは、「感動を表わす
に素晴らしい俳句があっ 言葉を大切にすること」と
たこと、祖父江寿枝様より のお話がありました。

応募作品数

区分	一般	小学生	中学生	合計
俳句	44	704	1,091	1,839
短歌	15	292	308	615